

株式会社アイエスネクスト

DX戦略 2023

2023年8月17日

株式会社アイエスネクスト

代表取締役 石井 邦彦

1.DXに関するトップメッセージ

【DXに取り組む背景】

飲食業界は、人手不足とデジタル化の遅れが深刻な問題となっています。人手不足は、飲食店の営業時間短縮や閉店につながり、デジタル化の遅れは、食品ロスの原因ともなり飲食店の競争力を低下させています。

私たちは、飲食業界の人手不足とデジタル化の遅れを打破したいと思っています。飲食業界は、人ありきの仕事ですが、少人数でも効率的に運営できる仕組みを構築することで、人手不足を解消することができます。また、データに基づく新メニューの開発や食品ロスの削減につなげることで経営体質を強化し、競争力を高めることができます。

飲食業界の人手不足とデジタル化の遅れを打破し、飲食業界の活性化に貢献したいと考えています。

【社長が目指すビジネスモデル】

接客はアナログで温かみのある「おもてなし」でお客様を笑顔にし、デジタル技術の導入で人手不足を解消し、食を通してお客様・従業員両方が笑顔になれるような会社になることを目指します。業務の省力化を進め、従業員の負担を軽減し良好な労働環境を提供し従業員も笑顔にまいります。

これまでは、来店できるお客様にラーメン、唐揚げ、パン、カステラ、カヌレ、餃子等を直接提供してきましたが、今後はデータを活かしてお客様のニーズに合わせた商品開発及びメニュー化を行い、テイクアウトやインターネット通販事業を強化していきます。

また、飲食業界での勤怠管理は特に手間がかかり、悩んでいる経営者も多いと思います。当社は、飲食店の勤怠管理を効率化・合理化できるシステムを開発し販売することで、飲食業界に貢献していきたいと思っています。

2.経営理念・経営ビジョン

【経営理念】

私たちは食を通して 世の中を笑顔にします

【経営ビジョン】

食を通してお客様、従業員、世の中を笑顔にしたいと思っています。

私たちは、心を込めた食の提供と最新のデジタル技術を通じて人々がつながり、お客様と従業員や生産者が交流し、笑顔になれる場を創り出したいと考えています。

従業員がやりがいを感じる事ができれば、仕事に誇りを持ち、温かみのある「おもてなし」ができるようになります。また、従業員が笑顔で働くことで、お客様も笑顔になれると信じています。

従業員もお客様も笑顔になれる飲食店を経営することで、飲食業界全体の活性化にもつなげ、善の循環を生みだし、社会貢献をしてまいります。

3.DX戦略

経営ビジョン及びビジネスモデルの達成のために、以下の3つのDX戦略を推進し、毎年売上げの1%を投資します。

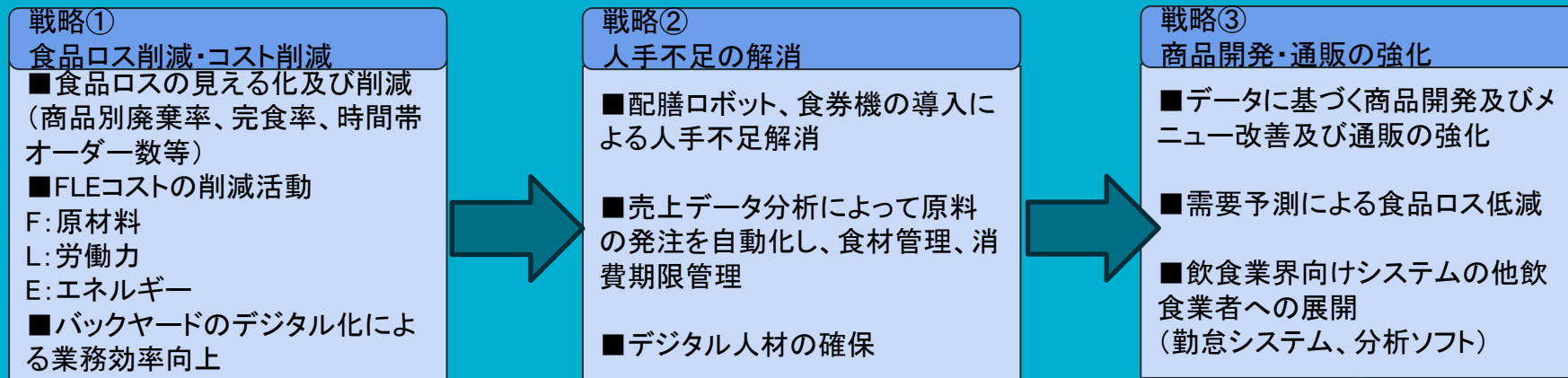
戦略①食品ロスの削減・コスト削減：デジタル技術による食品ロスの見える化・削減、FLE※コスト削減、業務効率向上

戦略②人手不足の解消：デジタル技術の活用による業務の省人化、売上データ分析による発注業務効率化、デジタル人材確保

戦略③商品開発・通販の強化：データに基づく商品開発、通販の強化、飲食業界向けシステム展開

※FLEは、Food(食物)、Labor(労働)、Energy(光熱費)のこと。昨年3つとも高騰しており大問題となっている。

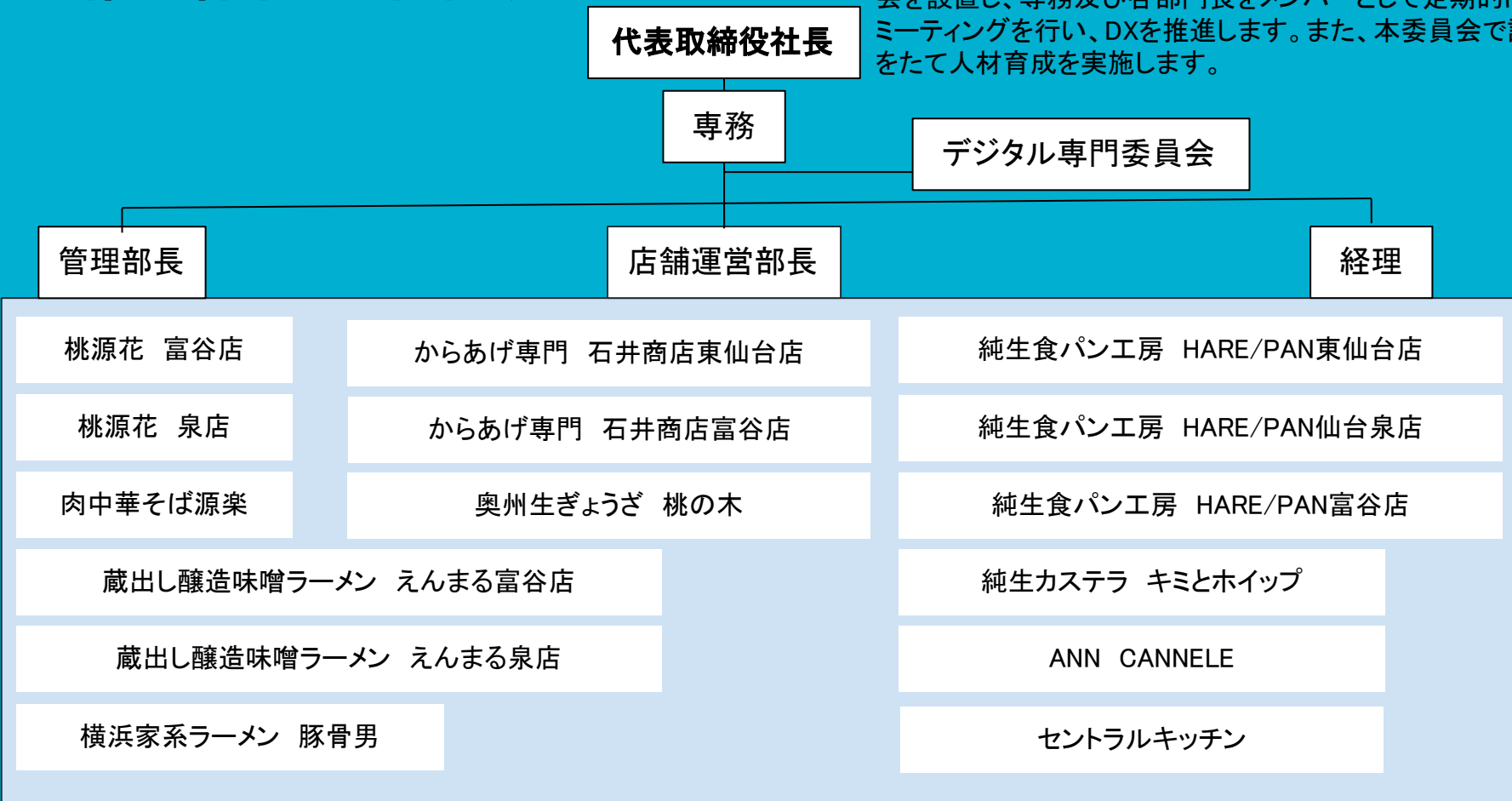
デジタル化によって商品別廃棄率等の食品ロスの見える化・削減⇒人手不足解消⇒商品開発・通販強化⇒需要予測による食品ロスの低減という好循環を創り出します。また、他の飲食店が困っている勤怠システム・分析ソフトの開発、販売を新事業ではじめ、飲食業界にも貢献していきたいと考えています。飲食店は、人手不足や法改正など、多くの課題を抱えています。飲食業界での自動化やバックヤードのデジタルの導入による業務の効率化・人手不足の解消・コスト削減を促進してまいります。



売れ筋・需要予測フィードバック

4.DX推進体制・人材育成

当社は、代表取締役社長を委員長とするデジタル専門委員会を設置し、専務及び各部門長をメンバーとして定期的にミーティングを行い、DXを推進します。また、本委員会で計画をたて人材育成を実施します。



5. デジタル技術、環境整備

当社はDX推進のために下記のデジタル技術の導入や環境整備に取り組めます。

既存システム	取り組み内容	いつまでに、何をします？	担当
Chatwork	内部・外部セキュリティ、文章管理手順の見直し	2024年迄に完了	統括マネージャー
インフォマート	セキュリティ設定・登録データの見直し	2023年迄に見直し実施	統括マネージャー
ピカイチナビ	オプション機能の見直し	2024年迄に見直し実施	経理部長
ミロク会計	クラウド化の検討	2023年迄に実施	経理部長
Voicemail	管理ルール、使用マニュアルの策定	2023年迄に完了	経理部長
人事労務ロボット	使用マニュアルの策定	2024年迄に完了	経理部長
Looker Studio	管理ルール、セキュリティの見直し	2024年迄に見直し実施	経理部長

新規システム	取り組み内容	いつまでに、何をします？	担当
Chat GPT	Chat GPTを活用した議事録の作成	2024年迄に完了	統括部長/各店長
Google Bard	Google Bardを利用した新商品開発レシピの作成	2025年迄に完了	統括部長/各店長
Googleスライド	Googleスライドを活用した各業態の運営マニュアルの作成	2024年迄に完了	統括部長/各店長

6.数値目標(KPI)

当社はDX推進の状況を測る指標として下記を定めます。

毎年2回自己計画アセスメントを行った上で、その結果を反映し各チームで実行計画を見直し月一回評価行いながら、目標を達成するように工夫しています。

区分	取り組み内容	時期	目標値
戦略①食品ロスの削減 コスト削減	1.食品ロスの見える化 及び食品ロス削減	2023年までに全店舗の食品ロス率把握 2028年までに目標原価率を達成する。	2023年比 50%減
	2.原価率の達成	2028年までに目標原価率を達成する。	2023年比 5%減
戦略②人手不足の解消	3.食券機/セルフレジ/配膳ロボットの導入	2028年までに目標値を達成する。	2028年迄に 全店導入
	4.デジタル人材の確保	2025年までにルッカースタジオを各店舗2名以上が使えるようになる。	2025年までに各店舗 2名
戦略③商品開発・通販 の強化	5.通販用の新商品開発数	2026年までに目標値を達成する。	新商品を2つ開発する
	6.新規顧客の獲得	2026年までに目標の新規顧客を獲得する。	2023年比 150%増
	7.飲食店向けソフト開発	2028年までに飲食店向けソフトを開発する。	2028年完了